

## 日本学術会議会長談話

### 大隅良典先生のノーベル生理学・医学賞受賞を祝して

この度、大隅良典東京工業大学栄誉教授・日本学術会議連携会員がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。心よりお慶び申し上げます。現職の連携会員が受賞されたことは、日本学術会議会長として大変誇りに思います。

今回の授賞は、大隅先生が、細胞が自らのタンパク質を分解する「オートファジー」のメカニズムを解明したことに對するものでした。オートファジーは、大隅先生が研究を開始した当時、観察が難しく、あまり注目されていない「挑戦的」な研究分野でした。大隅先生はそうした中で、飢餓状態の酵母を用いて、オートファジーを顕微鏡で観察することに初めて成功されました。さらに、大隅先生は、オートファジーに関する14の遺伝子を突き止めるという成果を挙げられ、この分野の研究を飛躍的に進展させました。

現在では、オートファジーはがんや神経疾患等に関係していると考えられており、その治療や予防に、大隅先生の基礎研究の応用が期待されています。こうした今後の可能性を含め、大隅先生の功績は大変意義のあるものだと考えます。

大隅先生には、今後も引き続き研究を続けて業績を積み重ねていただくとともに、後進の育成や学術界・社会に対する発信にも力を発揮していただきたいと思えます。

日本の科学者がノーベル賞を受賞するのは三年連続となり、我が国の科学研究の高い水準と研究者の層の厚さを世界に示しました。引き続きこのような素晴らしい成果を上げていくためには、挑戦的で独創的な若手研究者の育成に力を注ぎ、多様な研究の芽を育むことが重要です。すでに大隅先生は、受賞後、若い研究者を恒常的に支援し、長い目で科学を支える枠組みの必要性について発言されました。それを、日本学術会議も強く支持したいと思えます。

我が国の科学者を代表する機関として、日本学術会議は引き続き、様々な研究の意義が広く理解され、社会に浸透されるよう取り組むとともに、学術のさらなる発展のために力を尽くしてまいります。

平成28年10月18日  
日本学術会議会長 大西 隆